

氏名： 武尾 重也

卒業年： 2019 年 3 月

出身大学： 埼玉医科大学

サブスペシャリティ： 消化器外科



2021 年 4 月より多摩地域連携外科専門研修プログラムで後期研修を開始し、2024 年 3 月に無事研修を終えることができました。

東海大学医学部附属八王子病院 消化器外科は 10 名程度の先生方が臓器班別(上部、下部、肝胆膵)に診療を行っており、後期研修 1 年目から各臓器班の一員として、病棟管理だけでなく手術を含めて診療に携わることができます。

具体的には後期研修 1、2 年目は病棟管理、第二助手・スコーピストとして手術に入るだけでなく、急性虫垂炎、絞扼性腸閉塞などの緊急手術を中心に執刀をする機会をいただきました。また、外科医として基礎となる知識・技術を学べる画像診断科、麻酔科、病理診断科を各 1 か月ずつ研修する機会があるのは、本外科プログラムの特徴の 1 つでもあると思います。

後期研修 2 年目の後半 6 か月は連携施設である町田市民病院で研修をさせていただきました。当院から町田市民病院で研修を行うのは初めてでしたが、暖かく迎えていただき、非常に丁寧な指導をしていただきました。また、良性疾患から悪性疾患の手術まで幅広く執刀をする機会をいただき、研修開始から 1 年半で経験した執刀数を超える執刀機会をいただきました。半年間と短い期間でしたが、外科医として確かな成長を感じる充実した半年間となりました。

後期研修 3 年目は、第一助手をさせていただく機会も多く、また手が空いている限り緊急手術となった症例を執刀させていただきました。術前の手術説明から術後管理、退院まで上級医の先生方のサポートをいただきながらではありますが、主治医に準じて診療にあたり、責任やプレッシャーを感じる場面も多かったですが、非常に有意義な 1 年間でした。

この 3 年間はちょうどコロナ禍による非常事態の真っ只中での研修で、体力的に厳しい時期もありましたが、社会全体が経験したことのない状況下での医療現場を経験することができ、貴重な経験を得ることができたと同時に外科医としての基礎が固まったと感じました。コロナ禍の影響もあり突然の研修計画の変更や自身の希望が通らないこともありましたが、緊急手術を含めて一定の症例経験を積むことができました。どの領域の先生方も親身になって指導をしていただける環境です。ぜひ研修先の候補としていただければ幸いです。

氏名： 塩山 希衣



卒業年： 2019 年 3 月

出身大学： 東海大学

サブスペシャリティ： 呼吸器外科

私は、東海大学医学部付属病院で後期研修医をスタートさせ 2 年間研修し、医師 5-6 年目の 2 年間で東海大学付属八王子病院で研修しています。5 年目は呼吸器外科で研修し、6 年目である現在、外科専門医取得のために消化器外科・心臓血管外科・乳腺外科・小児外科をローテーション中です。

専攻している呼吸器外科は、少ない人数ながら年間 300 例以上の手術を行っています。手術症例数としては肺癌が約 3 割を占めており、楔状切除・区域切除・肺葉切除やさらに高難度となる気管形成や血管形成等も行っています。そのほか気胸や膿胸、縦隔腫瘍など胸部全般の手術を取り扱っています。少ない人数だからこそ、一人ひとりの役割が多く忙しいですが、その分沢山の手技を経験できます。気胸や縦隔腫瘍などは執刀させていただく機会も多くいただきました。子育て中で早く帰ったり、子供の体調不良などで出勤できない日があったりという中、限られた時間の中でも時に厳しく指導してくださり、1 年間で自分の中でも成長を感じられました。先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

当院には院内保育も併設されており利用させていただいています。時間も朝早くから遅くまで預かっていただけて、仕事と子育ての両立ができる環境です。子供の具合が悪い時にもすぐ駆け付けてあげられるため安心です。出産してから、「このまま子育てをしながら外科医を続けられるだろうか」という不安がありましたが、当院は女性外科医としても輝ける場所であると思います。

現在は消化器外科での研修を行っています。私の他にも後期研修中の先生方もいらっしゃいますが、今までの外科専門医取得のための症例数や環境をみて研修内容を考えてくださいますし、当院は総合医局なので上司へ相談しやすい環境であることも魅力であると感じます。外科医になれるのか悩んでいる方もきっと多くいらっしゃると思いますが、当院はその人それぞれのより良いプログラムを組むことができる環境です。一緒に働く仲間が増える日を楽しみにしております。



氏名：阿部 凜

卒業年：2015 年 3 月

出身大学：東海大学

サブスペシャリティ：消化器外科

昨年度、東海大学付属八王子病院外科後期研修を終えました。

当院は大学病院分院ながらアットホームな雰囲気、職員同士の挨拶が行き交い、総合医局で垣根が低く、他科の先生方にもコンサルトし易い所が魅力です。私が専攻する消化器外科は、予定手術では高難度手術と呼ばれる膵頭十二指腸切除術や胸腔鏡下食道癌根治術も豊富に行っており、臓器の偏りなく疾患や手術手技を学ぶことができます。また大学病院でありながら断らない医療を掲げ緊急手術も積極的に行っており、下部消化管穿孔や絞扼性イレウスなど実際に執刀させて頂く機会も多くありました。夜間休日に関わらずバックアップして下さる先輩方に、厳しく、時に優しくご指導頂き、主治医として判断する責任感を育みながら、貴重な経験を積ませて頂きました。



また半年間出向させて頂いた八王子消化器病院は、年間内視鏡件数も上部だけで 7500 件以上を有する消化器専門病院です。開腹の胃癌・大腸癌の手術を始め多くの手術を経験させて頂き、内視鏡も上部・下部・ERCP・ESD を一から教えて頂き、非常に充実した研修を過ごすことが出来ました。

苦しい事も沢山ありましたが、成長のために必要な苦労があり、実力のある臨床医になるためには叱ってもらえる若手の間にいかに経験を積むかが非常に大切だということが今なら分かります。外科医はひとの命を直接預かる仕事です。楽ではありませんが、自分が手術をして助けることができた方が笑顔で退院する姿を見たり、先生で良かったと言って貰うことがあると、この道を選んでよかったとすべて報われた気持ちになります。

自分が第一号として試行錯誤しながら経験した事のうち、不要な苦労は下にはもうさせたくない、でも成長のために必要な負荷はあります。先輩方がしてくれたように、今度は私が支えます。

この道を共に歩む仲間を、心からお待ちしています。



氏名： 上田 恭彦

卒業年： 2015 年 3 月

出身大学： 大阪医科大学

サブスペシャリティ： 消化器外科

私は、医師となって 4 年目 5 年目(外科医として 2.3 年目)の 2 年間を東海大学医学部付属八王子病院で研修させていただきました。外科医 1 年目は主に病棟管理と、手術は第 2 助手もしくはカメラ持ちがメインで、恥ずかしながら虫垂炎や胆摘もほとんど執刀したことがなく、そのような状態でのスタートでしたが、こちらに来てからはすぐに良性疾患の執刀をする機会を数多くいただき、始めは完遂できずに上の先生方に途中で助けていただくことがほとんどでした。上の先生方が繰り返し熱心にご指導くださったことと、症例経験を積んでいくうちに、自分なりに攻め方や気をつけなければいけないポイントを考えて手術に臨めるようになったと思います。また、研修の後半からは手が空いている限り緊急症例をほぼ全てファーストタッチから診させていただき、体力的にはかなり大変でしたが、腹部救急疾患に対す対応と治療方針の決定に加えて、入院から手術への段取り、退院までのマネジメントも含めて勉強させていただくことができました。さらに症例によっては悪性疾患を執刀させていただく機会も与えてもらい、こちらも完遂できないことは多々ありましたが、パートパートでアプローチの仕方や、層や切開ラインを意識した指導をしていただき、とても多くのことを学ばせていただきました。また、仕事のみならず、プライベートでも良くしていただくことも多く、上の先生方には感謝をしております。出身大学も医局も違う自分を、最後の最後まで面倒を見ていただき、本当にありがとうございました。

今後、多摩地区で研修を考えている先生方がいるのであれば、八王子病院での研修を自信を持ってお勧めします。外科専門医はもちろんのこと、消化器外科専門医取得を視野に入れた豊富な症例数と執刀の機会、学術的な指導も受けることができると思います。



氏名： 阿部 凜

卒業年： 2015 年 3 月

出身大学： 東海大学

サブスペシャリティ： 消化器外科

東海大学八王子病院、初めての外科後期研修医として過ごしようやく1年が過ぎました。前例がなく先生方と共に手探りでやってきましたが、いま振り返り、1年前の選択は決して間違いじゃなかったと感じています。

当院は高尾山で有名な八王子市にあります。自然が多く、美味しいご飯が食べられるお店もたくさんあり、仕事の疲れを癒やしてくれる場所が豊富な良い街です。そんな当院の良い所はアットホームでメディカルの方が優しく、総合医局で垣根が低く他科の先生方にもコンサルトし易い所です。昨年も病棟急変時に何度助けて頂いたことか。全科揃っているので必ず専門医がいるのも心強いです。



昨年は9ヶ月を消化器外科(3ヶ月ごとに上部消化管班と肝胆膵・下部消化管班をローテーション)、2ヶ月を外科専門医に必要な他科研修(1ヶ月を呼吸器外科、1ヶ月を乳腺外科)、1ヶ月を内視鏡研修という形で過ごしました。年間で経験できた手術症例は244例、定時・緊急含め56例を術者として執刀させて頂きました。野戦病院と呼ばれるような市中病院と比較すると経験症例数は少ないかもしれませんが、しっかり教育を受けながら経験できたので質・量共に満足しています。大学病院でありながら痔核や虫垂炎などの小手術も多く、もちろん高難度手術と呼ばれる膵頭十二指腸切除術や食道癌根治術も豊富にあり、手術がうまく、命に熱い10年目以上の先生方から学び、技を盗むことができるのも良い所だと思います。学会活動や論文執筆が出来るのも大学病院ならではのメリットだと思います。

良い所ばかり述べてきましたが、当院の後期研修制度がまだまだ発展途上であることは正直に認めます。そして外科は楽ではありません。決してタフじゃない私は何度も涙しましたが、それでもここには助け応援してくれる人と環境がありました。自分が手術した患者様が元気に退院していく姿を見たとき、全てが報われた気持ちになります。これはやった人間にしか味わえない感情だと思います。

いま迷っているあなた、私も1年前は外科医になることを迷っていました。でも今は、後悔していません。この道を共に行く仲間を、心からお待ちしています。



氏名： 庫本 達

卒業年： 2012 年 3 月

出身大学： 大阪医科大学

サブスペシャリティ： 消化器外科

東海大学付属八王子病院には平成 27 年 4 月から平成 30 年 3 月までにお世話になりました。私自身は卒後 4 年目から 6 年目までという期間を過ごさせて頂きました。

八王子病院の外科は、付属病院ということもあり、予定手術では癌の症例をほぼ毎日行っており、加えて虫垂炎、ヘルニアなどの良性疾患の手術を経験する機会も多く様々な症例を経験することができる環境です。また、緊急手術に関しても積極的に救急車や近隣の病院からの受け入れを行っているため、消化管穿孔、絞扼性イレウスなど緊急手術も経験することができました。

胃癌、大腸癌の手術をはじめ、膵癌、食道癌の手術数も経験することができ、開腹手術だけでなく腹腔鏡での手術も積極的に行っており、各手術を通して手術手技を学ぶことができました。虫垂炎、ヘルニアの手術は腹腔鏡で、実際に執刀さしてもらった機会も多くありました。カンファレンスにおいても大学病院らしく各疾患のスペシャリストがいるため、それぞれも疾患で専門性のある議論も行われており広くいろいろなことを学ぶことができたと思います。学会発表に関しては、各学会で毎年発表する機会もあり、外科、消化器外科専門医取得のための環境もそろっているため、後期研修を行うには十分な環境だと思います。

3 年目の後半はチーフレジデント制度に則って、緊急手術を中心に執刀する機会をたくさん与えてもらいながら外科医として忙しく過ごすことができる環境でした。まだまだ知識も経験も少ない駆け出しである後期研修期間を過ごすには素晴らしい環境だったと思います。

当初、東海大学付属八王子病院に来た時は外科医としてまだ、何もできない時期に大阪から来た僕に 3 年間多くのことを学ばせて頂き成長することができたことにとても感謝しています。